

平成28年第2回江別市総合教育会議

1 日時 平成28年11月2日(水) 午前10時00分～午前11時00分

2 場所 市長公室

3 出席者

(構成員) 江別市長 三好 昇
江別市教育委員会
教育長 月田 健二
委員 支部 英孝
委員 郷 早見
委員 橋本 幸子
委員 林 大輔

(事務局) 教育部長 渡部 丈司
教育部次長 萬 直樹
教育部学校教育支援室長 伊藤 忠信
教育部総務課長 山崎 正樹
教育部学校教育支援室学校教育課長 廣田 修
教育部総務課総務係長 星野 崇志
教育部総務課総務係主査 酒井 和恵

4 議題

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果の概要について
- (2) 平成29年度教育施策及び予算に関する意見交換について

会 議 録

三好市長	<p>定刻になりましたので、ただいまから、平成28年第2回江別市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日の議題は、お手元の次第に記載のとおり、全国学力・学習状況調査の結果の概要について及び平成29年度教育施策及び予算に関する意見交換についてでございます。</p> <p>それでは、次第に基づきまして、2の協議事項（1）全国学力・学習状況調査の結果の概要についてを議題といたします。</p> <p>事務局から報告願います。</p>
伊藤教育部学校教育支援室長	<p>それでは、全国学力・学習状況調査の概要について、ご説明いたします。</p> <p>全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国学力・学習状況調査に関する実施要領に基づき、小学校6年生と中学校3年生を対象に、児童生徒に対する教科に関する調査及び質問紙調査、並びに学校に対する質問紙調査を実施しているもので、今年度は、4月に調査を実施し、8月下旬に北海道教育委員会から調査結果の送付がありました。</p> <p>資料1、平成28年度全国学力・学習状況調査各教科の平均正答率についてをご覧ください。</p> <p>小学校及び中学校の平均正答率について、教科ごとに今回の平均正答率と、括弧内に前年度の平均正答率を、全国、全道、江別市、全国と江別市の差、全道と江別市の差の順に表記しておりますので、ご参照ください。</p> <p>今年度の傾向としましては、全国との比較では、小学校の算数・中学校の数学のいずれも全国平均に近づきつつあり、特に小学校の算数Aでは、全国平均を初めて上回った。</p> <p>一方、国語では、小中学校ともに、昨年は全国平均を上回ったが、今年は全国平均に届かなかった。</p> <p>全道との比較では、小学校はすべての教科で、中学校は4教科中、国語Aを除く3教科で、全道平均を上回ったという結果となっております。</p> <p>現在、質問紙調査も含めた詳細の分析を行っており、11月末頃に分析資料を作成し、公表する予定であります。また、北海道教育委員会においても、同意を得た市町村の結果について、11月末頃に市町村ごとの分析資料が公表される予定であります。</p> <p>説明は以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から報告を受けましたが、教育長から来年度に向けた取り組みについて、ご見解をお聞かせいただきたいと思っております。</p>
月田教育長	<p>その前に資料の補足をさせていただきたいと思っております。今年度の全国学力・学習状況調査の結果ではありますが、4教科平均の全国との差は、小学校は0.3ポイント、中学校は0.6ポイントとなっております。これは、都道府県別の順位に当てはめると、小学校はだいたい27位くらい、中学校は28位くらいという結果になっており、ほとんど全国と同等と言っても良いのではないかと考えているところであります。</p> <p>また、中学校ですが、参考として資料がありますので、そちらをご覧ください。</p> <p>今の中学校3年生は、実は小学校6年生の時にも全国学力テストを受けており、その結果がそこに記載しております。国語A・B、算数A・Bの全国との差は、2.9ポイント、2.8ポイント、0.1ポイント、4.1ポイントだったものが、中学校3年生では、0.9ポイント、1.1ポイント、0.1ポイント、0.2ポイントと全国との差が縮まり、子どもたちが、すごく努力をしてかなり伸びていることがわかるかと思っております。</p> <p>さて、私からの意見でありますけれども、10月24日に道教委主催の北海道学力向上推進協議会が開催され私も出席いたしました。都市教育長会から6名、町村教育長会から13名の教育長、北海道小学校校長会、中学校校長会の代表、PTA連合会の代表、社会連絡協議会の代表等が集まり、本道の学力向上策について話し合いが行われました。</p> <p>その中で、各教育長からの発言では、ただ単にチャレンジテストのような繰り返しプリントをこなして点数を上げようとするのは、真に子どものためにならないのではないか、という意見が多くありました。</p> <p>子どもたち自身が自分なりに努力すること、努力するとわからなかったところがわかる</p>

	<p>ようになり、学力が向上したと実感できることが大事ではないかという意見が多く出されました。そのような体験が、大人になった時に非常に役立つのではないかと論議されました。</p> <p>そのようなことを押さえながら、教育行政や各学校としては、子どもたちの教育環境づくりにしっかり対応すべきという意見が多く出されました。意見をまとめるならば、江別市も取り組みを進めているアウトメディアプロジェクト事業、いわゆるスマホなどを活用する時間を少なくするための取り組みや、子どもの生活習慣づくり推進事業、早寝、早起き、朝ご飯運動に代表される生活習慣づくりを進める取り組み、子どもの読書習慣活用事業、学校ボランティアにつながる学校支援地域本部事業、地域と一体的に子どもを育てるコミュニティ・スクール事業などは、良い取り組みではないかと多数の発言がありました。</p> <p>さらに、教職員の定数加配をお願いしたいと意見が各教育長から多く出ておりました。</p> <p>私もこれらの意見に賛成ですが、江別市の各小中学校では、学力向上につながる学校づくりの推進、いわゆる学力向上に効果的な学校運営をさらに進めていきたいと考えております。</p> <p>大阪大学によりますと、学力向上で良い結果を出している学校の学校づくりでは、一番目は、気持ちのそろった教職員集団、これが大事であり、挨拶の素晴らしい学校に代表されるのではないかと思います。</p> <p>二番目は、戦略的で柔軟な学校運営をする学校、いわゆる攻めの教育をしている学校ではないかと思います。</p> <p>三番目は、豊かなつながりを生み出す生徒指導、これが素晴らしい学校で予防的生徒指導をしている学校ではないかと思います。</p> <p>四番目は、すべての子どもの学びを支える学習指導を行っている学校、いわゆる教師の発想を生かす授業づくりやICT等の利用、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を行っている学校だと思います。</p> <p>五番目としては、ともに育つ地域・校種間連携ということで、地域との連携が進んでいる学校、いわゆるコミュニティ・スクール化をしている学校がこのような結果になっているということです。</p> <p>六番目は、安心して学べる学校環境ということで、支持的風土の学級づくりやQ-Uテストの実施、人権教育を行っている、仲間づくりを行っている学校が結果を出しております。</p> <p>さらに、七番目としては、前向きで活動的な学校文化のある学校、いわゆる風通しの良い学校、何事も最後まで頑張る雰囲気を持っている学校、こういう学校は子どもたちがよく伸びているということを大阪大学では調査して発表しております。</p> <p>このような学校になる学校運営を目指すように指導してまいりたいと思います。</p> <p>さらに、教育委員会の施策といたしましては、補充的な学習、いわゆる放課後の補修学習や長期休業中の補修学習等の実施、ICT教育の充実、英語教育の強化、学校学習サポート事業、大学との連携、江別式土曜授業、教職員研修などを実施し学力向上につなげたいと考えております。</p> <p>全国と同等というような結果であります。さらに全国の上位を目指して江別市の学力向上を考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上であります。</p>
三好市長	<p>教育長から全国の大学で調査されている話、それから来年度の取り組みなどにつきましてご説明をいただきましたが、皆様から何かご意見・ご質問はありませんか。(なし)</p> <p>私から一つお願いしたいのですが、市内でも成績の良い学校は何が素晴らしいのか、それに対して成績が良くない学校も当然あるでしょうから、その差は何なのか、教育委員会として分析し、成績の高い学校の良いところを全体に広げるよう、各学校に指導していただきたいと思っております。</p>
月田教育長	わかりました。
三好市長	先ほど、事務局からお話がありましたとおり、今回の結果の詳細は、11月末頃に学校ごとに分析されるということでございます。今後開催されます定例教育委員会の中で科目

別の結果やそれに基づく分析結果などに関する報告があらうかと思っておりますので、その際には活発なご議論をしていただきたいと思います。

以上で、本件を終結いたします。

次に、(2)平成29年度教育施策及び予算に関する意見交換についてを議題といたします。

市では、去る10月11日に、新年度の予算編成方針説明会を開催し、新年度に向けて、計画の未着手事業の確認や既存事業の見直しなどを進めるようお願いいたしました。

新年度予算を組む上での基本的な考え方としては、これまでも進めてまいりましたけれども、人口減少対策、そしてそれをカバーするのが雇用対策、または待機児童対策であろうということで、人口の社会減に対する取り組みを私の方から求めたところでございます。この対応につきましては、平成26年度から進めております第6次江別市総合計画の4年目ということで、これまで進めてきた事業について一旦点検をし、遅れているもの、または進んでいないもの、さらには急いで進めなければならないもの、それらのチェックをお願いし、確認をしながら来年度の予算要求をするよう指示したところでございます。今回、その指示内容について改めて事務局から資料に基づき、説明願います。

それでは、資料2と資料3についてご説明いたします。

まず、資料2の平成29年度予算編成方針、1ページをご覧ください。

1総論では、まず国の動向といたしまして、9月の月例経済報告において、緩やかな回復基調にあるものの、海外経済の不確実性の影響が懸念されております。国では、いわゆる骨太の方針2016によりまして、消費税増税の再延期とともに、ニッポン一億総活躍プランなどにより、経済再生等を目指すこととしているところでございます。

また、地方行財政改革においても民間委託やICT化などによりまして、自治体の広域化・共同化を軸に国は動いているところであります。

2政策の基本方針でございます。こちらは江別市の予算編成についてですが、市長からご説明がありましたとおり、えべつ未来づくりビジョンの4年次目といたしまして、安心して暮らせるまち、活力のあるまち、子育て応援のまち、環境にやさしいまちの4つの理念のもと、えべつ未来戦略を推進していくものとしてございます。

2ページをご覧ください。

3行財政改革の推進におきましては、税収や地方交付税等の歳入の伸びを期待できる状況に現在はありませぬので、歳出の効率化の取り組みが求められており、市民意識や社会情勢の変化を踏まえ、事務事業の見直しを継続していくということとしてございます。

4重点事項では、1えべつ未来戦略の推進といたしまして、①ともにつくる協働のまちづくりでは、多様な主体や様々な世代がまちづくりに取り組める環境づくり②えべつの将来を創る産業活性化では、市内の雇用創出や就労環境の整備③次世代に向けた住みよいえべつづくりでは、子育て世代の定住促進に焦点をあてて取り組むこととしてございます。

3ページをご覧ください。

④えべつ魅力発信シティプロモートでは、江別市の認知度の向上を目指すこととしてございます。

2まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進につきましては、人口減少下での持続可能なまちづくりを目指し、①しごとをつくり、安心して働けるようにする②えべつへの新しい人の流れをつくる③若い世代の結婚・出産・子育てを支援する④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしと健康を守るとともに、地域と地域を連携する、この4つの基本目標を掲げ、施策を推進するものとしてございます。

次に、4ページのI予算編成の基本方針、5ページ下段からはII総括事項といたしまして、予算要求にあたりまして、各部が留意する点を記載したものとなっております。こちらはご参照いただければと存じます。

続きまして、資料3についてご説明いたします。

こちらは、平成29年度文部科学関係概算要求のポイントでございます。文部科学関係概算要求のポイントでございますが、文部科学関係予算は、平成29年度要求・要望額では5兆8,266億円、平成28年度予算額に比較して9.5%の増となっております。こちらについては、学ぶ意欲と能力のある全ての子ども・若者、社会人が質の高い教育を受け、一人ひとりがその能力を最大限伸張できる社会の実現のほか、世界で最もイノベー

山崎総務課長

	<p>シオンに適した国の実現を目指すということになってございます。</p> <p>中段の文教関係予算のポイントでは、文教関係予算は、平成29年度要求・要望額として4兆3,638億円、平成28年度予算額に比較して7.6%の増となっております。こちらについては、一億総活躍社会の実現に向けた教育再生の取組として、次世代の学校創生に向けた指導体制強化や地域と学校の連携のほか、給付型奨学金制度や学校施設等の老朽化対策、こういった施策を重点化するということになってございます。</p> <p>以上でございます。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>引き続き、資料4の説明もお願いいたします。</p>
山崎総務課長	<p>資料4の平成29年度予算要望重点事項についてご説明させていただきます。</p> <p>こちらは江別市教育委員会予算の研修協議会の委員長から提出された平成29年度教育予算要望書の中から重点事項を抜粋したものでございます。</p> <p>1つ目は、継続でございますが、冬期間の通学路の車道及び歩道の完全除雪及び排雪についての要望でございます。</p> <p>2つ目も継続でございますが、保護者の教育費負担を軽減するため、小中学校理科消耗品の予算化についての要望でございます。</p> <p>3つ目は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の施行を踏まえ、特別支援教育充実のための人員の増員及び教材、教具の充実を要望するものでございます。こちら継続項目となっております。</p> <p>4つ目は、ICT教育の更なる充実のため、電子黒板等の効果的な活用を進める環境整備についての要望で、こちらは一部新規となりますが、全体としては継続となります。</p> <p>5つ目でございますが、学校・地域・家庭との連携を積極的に進めるため、江別市PTA連合会事業への助成を要望するものでございます。こちら継続です。</p> <p>最後の6つ目は、就学援助の補助項目にPTA、部活動、生徒会の3項目の追加を要望するものでございます。こちら継続事項です。</p> <p>以上、6項目が重点事項として協議会から提出されたものでございます。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>事務局から学校関係団体から要望されている予算の概要の説明をいただきました。この出されている課題については、総合教育会議開催前から、これまでも皆様と何度も議論しておりましたけれども、その中でやはり貧困問題も含めて大きな問題となっております。今日は、懸案事項でありました保護者の負担に関して、これは重点事項にも、就学援助の補助項目へPTA会費や部活動費、生徒会費の追加を要望します、という事項がありますので、その関連につきまして意見交換をさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>できましたら、皆様からご意見をいただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。</p>
支部委員	<p>就学援助につきましては、コミュニティ・スクールということが今盛んに話題に上ってきておりますので、ここで言うPTA活動とコミュニティ・スクールを連動したような形で予算が相互に使われていくようなシステムづくりができれば、特にこのコミュニティ・スクールの部分で、そういった配慮がいただければありがたいと思っております。</p> <p>部活動や生徒会につきましては、研究中でありますので、とりあえずPTAについてお話ししました。</p>
三好市長	<p>PTAの関連経費を意識して、それがコミュニティ・スクールに繋がるようにということでしたが、ということは、PTA会費に関連して配分すべきではないかということでしょうか。</p>
支部委員	<p>そうです。</p>
郷委員	<p>私も支部委員と同じで、これからコミュニティ・スクールにおいて、学校・地域・家庭</p>

	<p>との連携を考えた時に、江別市PTA連合会の協力が不可欠ではないかと思えます。私はPTA会費ということではなく、江別市PTA連合会の事業の充実や今後の展開を踏まえ、PTA連合会へ補助することが必要ではないかと考えております。どのような形になるかという、これからコミュニティ・スクールが導入されることになりませんが、これまでの流れから地域の方やPTAの方たちには、たくさんお世話になっているところでありますので、これからの展開を期待し、少し調整できればよいのではないかとと思えます。</p> <p>部活動、生徒会についてですが、部活動に関しては、各部活動の内容によると思えます。例えば、吹奏楽部だと楽器は大変高価なものですし、楽譜一枚も高価なものになっています。メンテナンスも大変予算が掛かるということで、吹奏楽部に関しては、保護者から会費をいただくなどして取り組んでいるという話を聞いております。いろいろな部活動があるので、掛かる経費に関しては差があると思えますが、経済的な理由で部活動に入れないということであれば、就学援助で少し考えてあげて、よりよい中学校生活を送れるような状況にしてあげられると良いかと思えます。</p> <p>生徒会の方も、今月に中学生サミットが開催されますが、各学校の活動は充実しております。そういったことも踏まえて、いろいろなことが充実できるようになっていければ良いかと思えているところです。</p>
三好市長	<p>郷委員にお聞きしますが、コミュニティ・スクールの形が決まった後、それに向けてどう進めていくのかということを見るとPTAに関連した方が良いのではないかと考えていたのですが、PTA会費については個別なのか、それとも市P連全体に支援するのか、どちらでお考えでしょうか。</p>
郷委員	<p>私としては、PTA会費に関しては、各学校で児童生徒の人数があると思えますが、その予算の中で、各学校の活動費用に充てたりしているところもありますので、改めてコミュニティ・スクールにPTA会費を充てるとは考えてなく、あくまでも市P連の事業へ支援する形と考えております。</p>
橋本委員	<p>就学援助の補助項目ということで、この3点のことをお話しさせていただきたいと思えます。PTA会費と生徒会費というのは、学校ごとには、金額が違いますが全員一律なので、保護者から徴収していたものを補助金で賄えれば、皆さんが納得いく形で保護者に対しては払わなくていいという形になると思えます。</p> <p>しかし、部活動に関しては、まず、大変残念なことです。部活の費用が払えないから部活をやめるという子もいます。そういう子どもを救ってあげたいという気持ちはもちろん持っていますが、先ほど郷委員もおっしゃっていたとおり、部活によって払っている金額が違います。部費がない部活もあれば、月に1万円近い金額を払っている部活もあります。その整合性というか、全保護者が納得する形というのは難しいと思えますが、大多数が納得していただける形で市から補助が出せるような方法を考えていただければありがたいと思っております。例えば、今もPTA会費の中から必要な部活には補助を出していますので、部費をなくし、市からの補助をPTA会費に組み込むことで、PTA会費から部活の活動に充てるため補助金を多くするというようなことは考えられないだろうかと思っております。</p> <p>もう一つ心配なのが、部費の払い方です。他の学校はわかりませんが、我が子の時は、子どもたちが先生の決めた期日までに部費を持っていくという感じでした。先生が部費を決めて徴収し、保護者が監査をするという状態でしたので、払っているお子さんと、払っていないお子さんが明らかになってしまいます。すぐどうこうということはないかもしれませんが、中学生という多感な時期に、子どもの気持ちとしては嫌な気持ちをするのではないかと思えますし、他の保護者の目にも触れることになるので、PTA会費と生徒会費は、先生や親でなく事務職員さんが行うと思えますので、部費に関しても少し慎重に取り扱って、皆さんが傷つかないような方法を考えていただきたいと思います。</p> <p>また、理科消耗品についてですが、これも先生が変わると、例えば、実験などが変わる場合がありますので、その辺の統一性が取れたところで補助をしていただけると保護者としては大変ありがたい部分だと思えます。</p>

三好市長	<p>今、二つの意見があったと思いますが、全体で均等に公平にするにはPTA会費がよろしいのではないかと、ということが一つありました。また、部活動費の払い方によって、子どもたちの気持ちに影響が出てくる可能性があり、その払い方の改善をするべきではないかということでした。</p>
林委員	<p>PTAの関係でいきますと、私も市P連に携わったものですから、市P連の予算要望の件は非常によくわかります。PTAは、日Pがあって道P、石P、市Pという流れができていますが、それぞれPTA会費の中から会費を上納するような仕組みになっています。日Pの会費が子どもの減少もあって値上がりしたため、それがずっと下におりてきて、江別市全体では、20万円ぐらいだったと思いますが負担が増えました。</p> <p>江別市の市P連の予算というのは、例えば、研修委員会で使えるお金が10万円、母親研修も10万円というように非常に限られた予算でやっている中で、20万円という金額が上がると本当に活動ができなくなります。それがきっかけで、この江別市への予算要望を出したという流れです。</p> <p>市P連の活動は、今までは、どちらかという和交流をメインにしてきたところがあります。それで一定の活動の成果は十分あったかと思いますが、去年くらいから教育委員会と連携して、例えば、スマートフォンなどの使い方を家庭でもしっかり指導しましょうということで、啓蒙活動を合同で行いました。市P連の活動は、今までは先ほど言ったように交流がメインだったのですが、そういうテーマを与えれば、みんな協力して動くような人たちがばかりです。先ほど、支部委員もおっしゃられていましたが、例えば、今年度市P連の活動の一つとして、コミュニティ・スクールを江別市としてどう取り組んでいけるか、市P連としてどう関わっていけるか、というテーマを与えて、そこでいろいろ議論してもらい、それを研修委員会で発表するだとか、そういったようなテーマを逆にほしがっている状態です。皆さん、どういったことをやったら良いのかというようなことを非常に迷っています。ですから、去年のスマートフォンの時のように市教委とヒアリングをしながら、市P連と連携を取りながら進めると、お互いもっと良い活動ができるのではないかなと思います。コミュニティ・スクールは、その題材として打ってつけだと思いますので、そういったような活動を今後行っていくと、さらに良い活動ができると感じました。</p> <p>もう一つ、部活動への支援ですが、皆さんおっしゃるとおり、昔より大会数が絶対的に増えています。遠征という概念ができて、我々子どもの頃は管内大会というようなもの、中体連なら中体連一本だったのですが、それとは別な大会がたくさんあります。江別市は、団体活動が特に強いものですから、勝ち上がっていくとお金が掛かり、保護者の負担が増えていく、という必然の流れになっています。ですから、そこを少しでも軽減できるように、わかりやすい予算の使い方だと思うのですが、そういうことに取り組んで行けたら良いなという状況です。</p> <p>さらに、もう一つ、予算とは別の話になりますが、子どもの数が減っているのも、特に中学校ですが、各学校で持っている部活の数が本当に減っています。その学校に行っても自分のやりたい部活がないので隣の中学校に行くというケースも多くあります。子どもたちにとって本当にそれが良いことなのかどうかということがあるものですから、なかなか、部活がない学校に団体スポーツの部活を1つ、2つ作るのは難しいことですが、例えば、陸上競技は個人でできます。中学校で今、陸上部があるのは2校ぐらいのはずです。中体連に勝ち進んで行くためには、陸協に登録しなければならないという制度があるので、例えば、野球では合同チームが中体連に出場しますが、一つの学校で登録して、記録が良い子が勝ち上がっていくという仕組みができれば、もう少し部活動の幅も広がるのではないかと、そういうことも感じています。</p>
三好市長	<p>PTA活動の仕方をいろいろ工夫すれば可能ではないかという話ですけれども、やはり林委員は、保護者負担の軽減を図るのであれば、均等に平等にというのは、PTA会費ではないか、ということでしょうか。</p>
林委員	<p>そうですね。PTA会費の金額は、小学校と中学校で違いますが、だいたい2,000円から3,000円ぐらいの間で徴収されているのではないかと思います。</p>

三好市長	<p>P T A会費のデータみたいなのはありますか。</p>
渡部教育部長	<p>小学校ですと、だいたい年間2,000円前後から4,000円。中学校になりますと、P T A会費という名目で集めているのは、少ない学校ですと2,000円ぐらいですが、部活動費も含めて年間9,500円くらい集めている学校もあります。横並びの比較というのは難しいですが、概ねこちらでの試算では、小学校であれば2,000円程度、中学校であれば、3,000円から4,000円ぐらいとなっています。</p>
三好市長	<p>どちらにしても学校ごとでバラバラという状況がありますので、もし何がしの財政的なものを考えることとなりますと、使い方、使い道、考え方を一つにまとめていただき、我々はその中の何に支援すべきかを議論しなければならないのではないかと思います。やみくもに全体を進める形では不公平感がでますし、理屈がたちませんので、何をどういう形で使うかといった、その中のこの分野は公のお金で支援すべきだといったような形にするというのが必要です。ですから、共通で使うものというのが私は必要かと思います。そういう意味での議論が、これからも必要かと思います。</p>
月田教育長	<p>P T Aの方ですが、学校ごとに単Pというのがあり、それが市で集まると市P連となり、そこでも活動があります。そして、石Pという石狩管内のP T Aの集まりもあって、そこでもまた活動をしています。そして、道Pというのがあって、そこでまた全道的な活動をしています。さらに、日Pというのがありまして、日本全体的な活動をしているということですが、単Pの会費がその上部団体の活動を支える仕組みとなっているので、単Pは大変です。例えば、道Pで、私事務局でおりましたけれども、北海道からいわゆる補助金というのがありません。ですから、道Pは道の方からの補助金、日Pは国の方から補助金が入るように市長会あたりで、ぜひ言っていただきたいと思います。そうすると、単Pのお金もそんなに上部団体へいかないかと思えます。市P連は、先ほど林委員が言いましたように、ある程度、市の補助金が入るとすごく良いと思います。石Pは、7市町村の集まりのP T Aですから、それぞれの市町村からの補助金というようなことになろうかと思えますが、いずれにせよ、横からの補助金が入らないとこれからのP T Aの活動は、だんだんできなくなるのではないかと、私としてはすごく心配しております。</p>
三好市長	<p>今、所得差が広がり、子どもの貧困という問題が全体的に高まってきております。私が、一番気になるのは、中学校を卒業して高校に進学できるかどうか、お金がないので高校に行けない、または中学校で学力がなかなかうまくいなくて高校に行けない、そのようになりますと、すべてではありませんけれども、かなりの確率で負の連鎖に入ってしまうことがありますので、そこに何がしかしなくてはならないという社会情勢に全体としてなっています。</p> <p>高校の義務教育化の問題ですとか、幼稚園への支援というような動きが今ありますので、そういう動きの中で、市として何がそういうところに配慮できるのか、これは議論していかなくてはならないかと思っています。特に、中学生、たまたま江別は中学生になると学力が上がり、良い方向にきていると思えますけれども、その中で経済的な負担で学校の勉強ができないという子どもがいたら、何かしらの支援をしてあげなければならないという気持ちはしています。ただ、どういう形で支援を行うのかということは、非常に難しく、ただお金を出すということではないのではないかと思います。そういう子どもたちに学習環境を提供するというのが、私はまず一番かという気がします。どうしても、お金を出す方向に行くのですが、我々がやるとしたら、そういう環境を作ることにお金を出してあげることが一番必要な気がしますが、いろいろなやり方がありますので、議論しなければならないと思っています。</p>
月田教育長	<p>もう一つ、来年度、全学校がコミュニティ・スクール化を目指すということで今やっておりますけれども、そのコミュニティ・スクールの委員になっていただく方は、P T Aの方を中心に考えていきたいと思っておりますことから、やはり、江別市P T A連合会というのを非常に大事にしないでならないのではないかと思います。その辺の兼ね合いというか、どのようにコミュニティ・スクール化を目指す中で、そういう方々をやりく</p>

	<p>りさせるかというのが非常に大事かと思えます。</p>
三好市長	<p>コミュニティ・スクールにどんどん進化していきましたら、今、地域に学童保育というものがありますけれども、中学校あたりでも勉強するような場というものを学校の中にできる可能性はあるのでしょうか。</p>
月田教育長	<p>そのようなことを考えております。</p>
三好市長	<p>ぜひ、検討していただきたいと思えます。 その他、何かありませんでしょうか。今、4人の委員と教育長からお話がありましたけれども、それも含めて、今後の予算の中で少し議論させていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。</p>
月田教育長	<p>最後に私から、お話をさせていただきたいと思えます。 教育予算につきましては、これまでも協議会からの要望や、各学校からの日常的な意見などを通じて、教育現場のニーズや現状を把握するとともに、教育部が財政所管部局からヒアリングを受けることにより、適切な予算措置につながるよう、努めてまいりました。 今後も、教育現場の職員の声に十分耳を傾け、総合教育会議の場をお借りしながら、予算編成権をお持ちになる市長に、教育現場のニーズや現状を伝えてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
三好市長	<p>わかりました。 その予算に関連したことになりますが、もう一つだけ私の方からお聞きしたいことがございます。 今、ICT教育を進めており、平成25年、26年にかけて全学級に電子黒板を配置しました。国もICT化を進めるという大きな流れになっており、来年の国の予算を見ましても、次世代学校支援モデル構築事業やさらにはICTを活用した教育推進自治体応援事業など、かなりの新規事業や継続の拡大事業が出されております。 11月6日に式典を開催します江別第一小学校もICT化のモデル事業ということですが、この3年、4年くらいの間、江別市内の学校でも随分ICT化が進んだと思えます。こういう機会ですから、皆様方にICT化、電子黒板等につきまして、何かご意見がありましたらお聞きしたいと思えます。できれば、私としては評価がありましたらお聞かせいただければと思えますが、いかがでしょうか。</p>
支部委員	<p>この1年間に学校一斉公開等が何回かありましたので、小学校、中学校に行かせていただきました。その中で、同じ科目の電子黒板を利用した授業を見比べる機会がありました。子どもたちは、先生の問いかけをすぐ理解できるな、というのが教室の後ろから見ていてもわかるような状況でした。 また、子どもたちが間違った回答、あるいはバラバラな回答をしておりましても、正しい回答に導く過程であるとか、方法、あるいは学び方といいますか、そこにスピード感があって見える形で授業が進んでおり、電子黒板の威力を目の当たりにした気がしました。 これは、私の個人的な意見ですけれども、子どもの教育は賢くなるための授業や教育と知識を得るための教育の二つがあるのではないかと考えております。例えば、私自身が今、微分積分の問題を解きなさいと言われても解けません、生きて行くことに支障はありません。しかし、大人になっていろいろな問題を解決していくにあたり、柔軟な発想とか、わからないことをどのように解決していくのかという時に、日々の生活ではあまり役に立っていないと思われる教科でも、私自身としてはとても参考になっているのではないかと考えています。 そのように考えていくと、頭を育てる教育が便利であればあるほど、また理解しにくければしにくいほど、それを理解することで賢くなっていくとか、大人になって出会う理解し難い問題、あるいは考えの違うものに対する自分なりの考え、あるいは一般的な考え方を理解できるような人間に育てていくのではないかと感じました。 一方では、情報化社会ということで、たくさんの情報が得られるようになっております</p>

<p>三好市長</p>	<p>ので、分かりにくい社会情勢も分かりやすく理解できるというところもあるのではないかと思います。例えば、私自身ですと、新聞で読んでも分かりづらい社会情勢なども、テレビ番組で非常によく理解できるなど、情報がたくさんあるということは、大変良いことではないかと感じました。</p> <p>義務教育を終えた段階で知っていてほしい知識、あるいは大人になって知らなければいけない知識というのがあるのではないかと思います。</p> <p>ICT化による便利な教育ツールというのは、良い道具である一方、落とし穴もあるのではないかと思いますので、教える側がその利点と欠点を十分に理解した上で、未来を担う子どもたちに教えていただければと思っています。電子黒板の利用につきましては、教える側は常に勉強会や講習会を積極的に行い、自己啓発を怠らないことが大変必要なのではないかと、動き出した後の感想として思っています。</p> <p>その他、何かありませんか。</p> <p>我々も、教える側の教員のレベルの向上は課題であると考えております。ICTは、常に進化していきますので、当然、子どもたちは新しいものを見たり聞いたりしており、教え方も変わっていくと思います。そういう意味では、常に勉強していかなければならないと思います。教員は、電子黒板がなくてもやっていたのではないかと思います。画面を見て視覚に訴えることができるようになりましたので、なおさら新しいものにチャレンジしていかなくてはならないと思います。</p> <p>総じて、よろしいのではないかとのことでした。</p>
<p>三好市長</p>	<p>教育長、何かありますか。</p>
<p>月田教育長</p>	<p>確かにICT化、特に電子黒板等は利点と欠点はもちろんありまして、それらを常に先生方が勉強会、学習会を通して勉強していくことが、最大の道かと思っています。</p> <p>私たちも、昔のお医者さんくらいの学習ができていないかと思うくらいテレビではいろいろと放送されています。テレビを見ている時は、なるほどと思いますが、1日経ったら全部忘れて頭に入っていないです。ですから、子どもたちの頭に入れるためには、やはりノートに書くとか、自分でやってみるといったことが絶対的に必要になりますので、先生方はその辺のところを相当吟味しながら電子黒板を効果的に活用していくことが非常に大事だと思っています。</p>
<p>三好市長</p>	<p>私もやはり国語だと思います。最後は、理解力のところに結びつくという気がします。スマートフォンで様々な情報が入りますので、その情報を確認することはできますが、書いてあることをどう理解するかということになると、やはり読解力というか、理解をする仕方になりますので、最終的には国語かと思っています。説明をするのも国語でしょうし、話し方、相手に理解してもらおうのも国語です。そういう意味では、国語力というのが非常に重要になってくるのではないかと思います。</p> <p>ICT化はツールですので、ツールを過信したような形になってはいけないと思いますので、うまく使える、使いこなせるような仕組みづくりというのが必要だと思います。</p> <p>その他、何か皆さんの方から意見はありますか。</p> <p>それでは、私からお願いしたテーマについては、この程度にさせていただきたいと思います。</p> <p>次に、3のその他についてですが、本日、協議した以外のことで、皆様から何かご意見等はございませんか。(なし)</p> <p>それでは、次回の日程でございますが、緊急に協議を要する事案がない限り、来年の春ごろの開催を考えておりますので、事務局を通じてご連絡をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>熱心なご議論をいただきましたことを、心から感謝申し上げます。</p>